

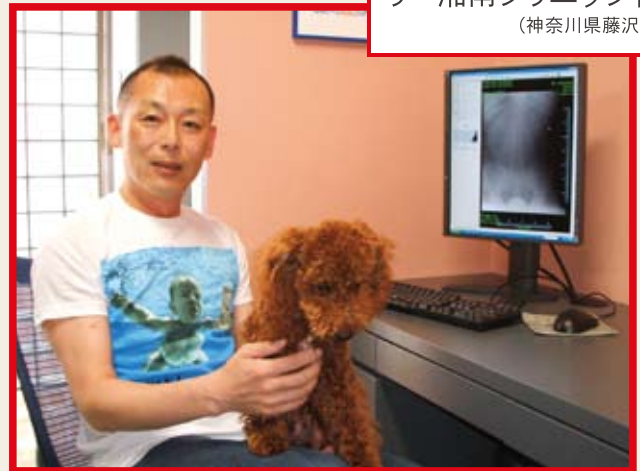
Dr.'s REPORT

RF SYSTEM lab.

ドクターズ・レポート | 「デジトゲンNAOMI」をお使いのドクターによる
製品やサービスに関する生レポートです。

今月のレポート医院

リー湘南クリニック様
(神奈川県藤沢市)



リー先生と愛犬のKoboちゃん



低被ばく。フィルムを上回る画質

デジトゲンNAOMIの納品日、使用説明を受けたのですが、本番を前にグリッドの使い方が分からない。そこへ、担当者から電話をいただき、なるほど問題解決。

さて本番、身体の厚みに応じ、電圧、電流、そして照射時間を設定するのだが、以前に比べ格段に患者さんの被ばく線量が少ない。照射ボタンを押したら、数秒後には写真がPCモニターに映し出された。画質は、従来のものと全く遜色ないか、上回っている。

暗室が必要なくなり、いいことづくめ

これまでは、カセットを現像室に運び、赤色灯の中、カセットからフィルムを取り出し、現像機にくべる。そして、新しいフィルムをカセットに装填した。作業量だけでも大幅に軽減された。さらに、フィルムの場合、現像液が劣化する、定期的洗浄が必要、また廃液を有料で処理してもらった。さらに・さらに、暗室が必要なくなり、倉庫として活用している。いいことづくめ!!!

丁寧かつ迅速なアフターサービス

ハードディスク上の画像をDVD-Rに保存する方法が分からないので「相談窓口」に電話すると、非常に丁寧に、かつ迅速に対応いただいた。

開業をお考えの先生方、三種の神器（レントゲン、心電図、超音波）のうち、最も高価なのがレントゲン。ある業者にレントゲンデジタル化を相談したら、カセットを現像機にくべる、前と労働力がほとんど変わらないヘンテコな機械が「標準です、どこでもこれですよ」と言われた。しかも、かなりのお値段。

デジタル化をお考えの先生方、デジトゲンNAOMI、絶対お勧めです。参考ブログ「異端医師の独り言」2007年5月31日。



MEMO

フィルムを超える
デジタルならではの
超高度感。

超高度感だから、例えばX線量*16でも画像取得が可能。超高度感だからブレによる失敗が少ない。すべては医師と患者さんの負担を減らす為に。デジトゲンだからできることです。

*フィルム(感度250)を使用し、通常条件96kV/6mAで撮影した画像と比較。
※デジトゲンを使用し、感度デジタル増幅値4000で胸部を撮影(使用機種・部位・体厚により必要線量は異なります)。

感度16倍。

2007
07
vol.08

低被ばく、高画質、暗室不要。アフターサービスも丁寧に迅速。

デジトゲンに替えたら いいことづくめ!